

諏訪 剛・向野 幹生

目 的

和歌山県沿岸における、アマモの分布状況および遺伝的多様性を把握し、保全および再生事業のための基礎的情報を得る。

なお、詳細については「アマモ類の遺伝的多様性の解析調査 平成17年度報告書」(平成18年3月 東北区水産研究所)に報告されている。

方 法

串本町橋杭海水浴場(2005年12月9日)のアマモ場で遺伝子分析用として33株のアマモを採集するとともに、和歌山市加太友ヶ島(8月1日)、広川町唐尾地先(7月6日)、日高町比井湾(4月28日)、田辺市新庄町地先(4月14日)、白浜町藤島(8月5日)、串本町高富地先(8月8日)、同町橋杭海水浴場(12月9日)、那智勝浦町勝浦地先(7月15日)のアマモ場にて海草類の種組成調査を実施した。なお、遺伝子分析用のサンプル採集と種組成調査は、平成16年5月28日に開催された「平成16年度生物多様性に配慮したアマモ場造成技術開発調査事業計画会議」における東北区水産

研究所の指示に従った。また、田辺市新庄町地先と串本町高富地先以外での種組成調査ではアマモの分布域を箱眼鏡、スキューバ潜水などにより調査し、DGPS(古野電気、GP-37)で位置を記録して面積を求めた。さらに、2006年2月3日には小型飛行機により白浜町見草、串本町高富と同町橋杭海水浴場の上空からアマモ場の分布を調査した。

結 果

調査結果の概要については次のとおりである。

遺伝子分析：東北区水産研究所にて分析中。

種組成調査：全ての地先でアマモを採集したが、友ヶ島、高富地先、橋杭海水浴場、勝浦地先ではコアマモとウミヒルモ、新庄町地先ではコアマモ、唐尾地先、藤島ではウミヒルモも採集した。

分布域：アマモ分布域の面積は、友ヶ島が約0.8 ha、唐尾地先が約0.4 ha、比井湾が約5.1 ha、藤島が約0.9 ha、橋杭海水浴場が約2.3 ha、勝浦地先が約3.9 haであった。

飛行機：各地先のアマモ場は海底の濃色域として認められた(図)。

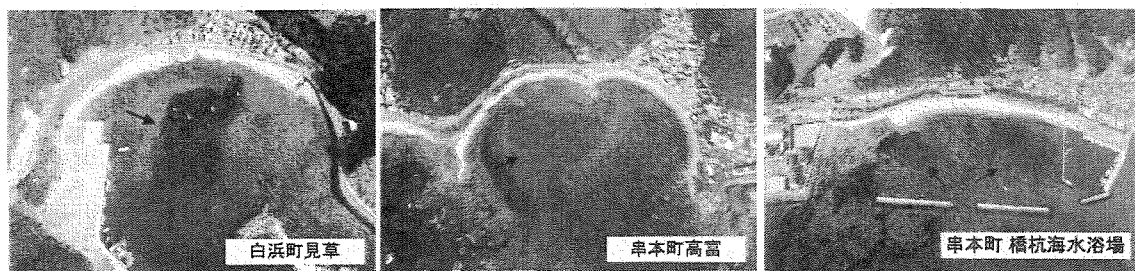


図 上空からみたアマモ場(矢印)

* 生物多様性に配慮したアマモ場造成技術開発調査事業費による。